

守るために変わる、

波々伯部神社

祇園祭



丹波篠山市の東部に位置する波々伯部神社。この神社では、疫病退散を願う「祇園祭」を毎年夏に行ってきました。「丹波の祇園さん」とも呼ばれるこの祭りは、氏子8集落から8基の山車が参集し、威勢の良い掛け声とともに境内や周辺を練り歩きます。今回は、近年の猛暑と祭りの担い手不足を踏まえて、この祭りを未来へつなぐための変化と、3年に一度行われる「おやまの神事」についてお伝えします。

猛暑から担い手を 守るために――

以前は、8月4日・5日に執り行われてきた「丹波の祇園さん」。若者の減少や平日開催では山車の引き手の確保が難しいことから、平成10年から8月の第1土曜日・日曜日に変更し、続けられてきました。

波々伯部神社から大歳森神社まで8基の山車を引く「渡御」は、夏の強い日差しを受けながら、往復1・6キロメートルの道のりを練り歩きます。しかし、近年、酷暑の影響が一層深刻化しており、全国的にもイベントの中止を余儀なくされるケースが増えています。加えて、祭りの主要な担い手の高齢化や少子化による担い手不足が進んでおり、8基の山車がそろわない年もあります。

高齢化、少子化による担い手不足に加え、これまで以上に健康・安全への配慮が求められる中、伝統を守り続けていくため、関係者間で協議が重ねられてきました。その結果、

担い手や参加者の安全を第一に考え、今年（試行的に）6月6日（土）・7日（日）に開催日が変更されます。また、当日は例年通り看護師の方も参加し、健康面への配慮が講じられています。



3年に一度の特別な年――

今年の祇園祭では3年に一度の「おやまの神事」が実施されます。「おやま」は「胡瓜山」とも呼ばれ、山鉦の原型ともいわれており、天から神が降臨する場所とされています。宮関係者や氏子たちの手によって組み立てられた2基のおやまの舞台上では、宮年寄が演じる「デコノボウ」と呼ばれる人形劇を奉納します。

当日上演される演目は、聖人が京の都を火災から守り、水不足にならないよう清滝に祈願に行ったところ、目の前に龍神が現れる「愛宕山」、弓の名手である田原藤太が、琵琶湖を荒らす大ムカデ退治を依頼される「田原藤太」の2作。そして、余興として「猪の筍堀」「ハチの巣退治」の2作が上演されます。



胡瓜山で演じられる人形劇「デコノボウ」



氏子の手によって組み立てられた胡瓜山



INTERVIEW

波々伯部神社 宮司 近松賤さん

自身が子どもの頃からずっと祭りに携わってきました。今回の開催日の変更は試行的なものです。これからも、何よりも参加する人の健康を第一に考え、みんなで試行錯誤しながら、伝統あるこの祭りを守っていきたいです。

祭りに参加する地域の方

近年は熱中症対策を講じていても体調への心配がありました。6月開催となり心配が少なくなってありがたいと思っています。今年は山車の巡行が全地区そろって参加できそうなので、より一層楽しみです。



リポーター 小山美樹さん

田んぼ道をゆったりと進む山車の巡行と、子どもたちの元気なお囃子。丹波篠山市には、祇園祭のように美しく、元気をもらえる伝統行事がたくさんあります。それらの行事を永く続けていけるように、時に工夫しながら、みんなで守っていきたく思います。

祇園祭 日程

- 6月6日(土) 宵祭り
 - 19:00 宵祭りの儀開始
- 7日(日) 本祭り
 - 14:10 祭礼の儀開始
 - 14:30 渡御出発
 - 17:40 「デコノボウ」奉納

特集 情報ピックアップ タウントップニュース HOIとく 市政リーダー インフォメーション おでかけ相談 はぐくみ 街かどレポート まちの話